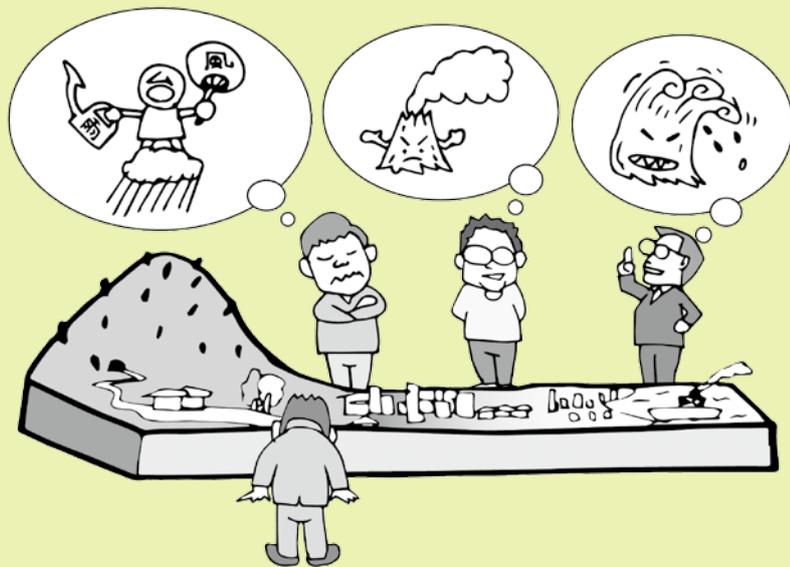


2

地域の特性を把握しよう

地域によって、危険箇所や被害想定は異なります。たとえば、「大雨時に、土砂災害が起こりそうな場所」、「火災時に燃え広がりそうな場所」、「地震発生時に建物が倒壊しそうな場所」、「津波の浸水被害を受けそうな場所」などがあります。

また、地域には、災害時に活用できる「場所」「物」「人」「組織」「施設」など、資源がたくさんあります。地域の「危険箇所」「活用できる資源」を把握しましょう。



① 「まち歩き」を試してみる

事例 11 「まち歩き」と記録 [港南区 雑色町内会]

事例 12 防災ウォークラリー [南区 六ッ川地区連合自治会]

② 「マップ」を作成する

事例 13 「ガリバーマップ」の作成 [港南区 日下連合町内会]

事例 14 「逃げること」だけを考えた防災地図 [西区 一本松まちづくり協議会]

③ マップを活用してまちへの理解を深める

事例 15 町内減災オリエンテーリング [西区 一本松まちづくり協議会]

④ 地域特性に応じた対策を考える

事例 16 洪水からの避難訓練 [鶴見区 平安町町会]

① 「まち歩き」を試してみる

ハザードマップなどを片手に、実際にまち歩きをして、地域の「危険箇所」や「活用できる資源」を把握することが重要です。みんなで地図を広げて話し合ったり、まち歩きをすれば、地域の「危険箇所」や「資源」をたくさん発見することができます。

事例 11

「まち歩き」と記録

港南区 雑色町内会

雑色町内会では、「まち歩き」をして、地域の様々な資源を発見しました。

数名のグループを組み、災害時の様子を想像しながら、問題箇所や活用資源を発見しては、カードなどに記録をとっていきます。記録は、記憶が薄れないうちに、地図に書き込むなどして皆でまとめます。

【記録の例】

① ○○橋下 ・災害時に取水する場所。消火用水などに使える。 ・ポンプがないと難しい。バケツリレー？ ・川岸のゲートボール場。災害時に利用できる？	② 環2下 ・いつも水が流れている。道の脇からも出ている。地盤が心配。 ・昔は「清水坂」と呼んでいたくらいで、水脈が通っているはず。	③ ガソリンスタンド (ご主人に聞く) ・地震の後はまずは閉鎖となる。 ・3t ジャッキなどの救助に使用できる道具は地域に協力できる。
④ 銭湯 ・被災者の避難場所として利用。 ・以前は AED があった。現在は？	⑤ ○○寺 ・避難場所として利用可能 ・事前に頼んでおく必要がある。 ・この辺りは古い戸建て、アパートがあり、倒壊の恐れあり。	



ここがポイント

- ❗ 誰かがポイントを見つけたら、グループ全員に知らせ、状況を共有します。
- ❗ どうしたらよいか、どう活用できるかなど、皆でちょっと意見交換します。そして、それらの意見をメモします。
- ❗ 正確な場所を地図に記載し、念のため、写真も1枚とっておきます。
- ❗ 問題点ばかりでなく、まちの強みもたくさん見つけましょう。



漫然と歩き回るだけでは、ハイキングと変わらなくなってしまいます。面倒でも記録をとり、地域の資源情報を蓄積していくことが大事です。それを見返すことで、活用策に結びつけることができます。

横浜プランナーズネットワーク 山路 清貴さん

ハザードマップを活用し、地域のことを調べてみよう!!

災害に備えるためには住んでいる地域のことをよく知ることが大切です。ハザードマップを活用し、地域の危険箇所や避難ルートなどを確認しましょう。

◎各種ハザードマップの種類、用途

〈ハザードマップ〉

名称	対象災害	掲載内容	
		地図面	情報面
地震マップ	地震	・地域の震度の大きさ	—
液状化マップ	地震	・地域の液状化の危険度	—
浸水ハザードマップ	洪水ハザードマップ	風水害(大雨・台風等) ・河川の氾濫により浸水する恐れのある地域 ・避難場所	・日頃からの備え ・大雨時の注意点など
	内水ハザードマップ	風水害(大雨・台風等) ・下水道や水路からの浸水により浸水する恐れのある地域 ・避難場所	・日頃からの備え ・大雨時の注意点など
土砂災害ハザードマップ	風水害(大雨・台風等)	・土砂災害の発生危険地域 ・がけ崩れの発生危険地域 ・避難場所	・土砂災害に関する気象警報などの防災情報の流れ ・日頃からの備え ・がけ崩れの前兆現象 ・避難行動

〈その他マップ〉

名称	対象災害	掲載内容
わいわい防災マップ	災害全般	・利用者の選択により任意で表示 (例) 震度、浸水区域、焼失棟数、各避難場所、災害時給水所、土砂災害計画区域、避難に適する道路・適しない道路、緊急輸送路など
スイスイマップ	災害全般	・災害時に水を給水できる場所 (災害用地下給水タンク、配水池、緊急給水栓)

ホームページで確認できます。

横浜市 総務局 防災マップ

検索

事例 12

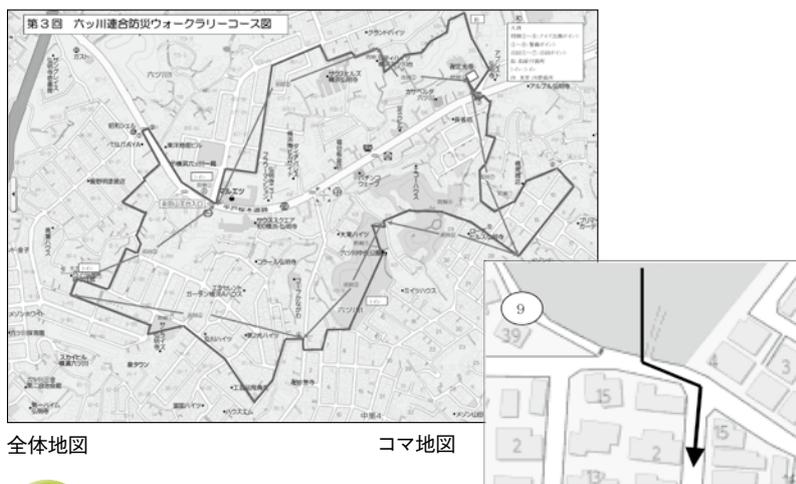
防災ウォークラリー

南区 六ッ川地区連合自治会

六ッ川地区連合自治会では、「防災ウォークラリー」（現在は「安全安心ウォークラリー」）を実施し、楽しみながら、防災の意識の向上を図っています。

数名でグループを作り、「コマ地図」だけを頼りに、3～4kmのコースに設けられた10か所程度のチェックポイントを回りながら、防災に関するクイズに挑戦します。（賞品も出ます。）楽しみながらまち歩きをし、車イスが通れない道の確認など普段は意外と知らない自分のまちの特徴などを無意識のうちに確認することができます。

婦人部・子ども会・食事サービスの方々に協力していただき、豚汁やおにぎりの炊き出しも実現しました。



参加者には全体ルート図は渡されません。コマ地図だけを頼りに進みます。ゴールもわかりません。



ここがポイント

- ❗ 急いでゴールすることが目的ではありません。ゆっくりと歩くように、目標タイムを設定（早すぎても遅すぎても減点）することも有効です。
- ❗ 高台から自分のまち全体を見渡すなど、多彩な地形を体験できるようにします。
- ❗ スマートフォンなどでクイズの答えを探す人などが出ると、楽しさも半減してしまいます。まちの様子をよく観察していないと答えられない問題などを工夫しましょう。
- ❗ ゴールしたら、豚汁などを食べながら皆で感想を言い合えるようなゆとりがあると最高です。



住民がボランティアで活動を行うときに、なにが一番大切かということ「楽しくないといけない」ということです。

また、人を集めるとなると、「動員」などと言いますが、それではあまりうまくいきません。それよりも、例えば「一緒に飲もうじゃないか」と仲間と集まり、一人ひとりと話をして、やる気がある人を少しずつ集めていくやり方のほうがうまくいきます。

六ッ川地区連合自治会 東梅 良成さん

② 「マップ」を作成する

まち歩きで把握した「危険箇所」や「活用できる資源」は、地図上に示して、住民で共有しましょう。さらに必要に応じて、「危険箇所」を避けた避難ルートを考えておきましょう。

事例 13 「ガリバーマップ」の作成

港南区 日下連合町内会

日下連合町内会では、日下地域ケアプラザと連携して、災害時に活用できる資源を「ガリバーマップ」という大きな地図に落とし込むワークショップを開催しました。



【マップ作成の手順】

- ① 自宅を探し黄色シールを貼る
- ② 買い物したりサービスを受ける店舗に赤シールを貼る
- ③ 地域の人が集まる場所に青シールを貼る
- ④ 資源がある位置に緑シールを貼る



ここがポイント

- ❗ 自宅の位置がなかなか見つからない人もいます。地図を読むのが苦手だからと言って、簡単に教えてしまうのではなく、時間をかけて意識が少しずつ地図の中に入るよう一緒に導きます。
- ❗ 全ての資源を見つけ出そうとするのではなく、凡例となる代表例だけでもみつければ、という気持ちで探します。次の段階で、現地に足を運んだり、全体的に調査します。
- ❗ マップには薄いビニールシートを被せ、大判地図を汚さずに何でも書き込んだりシールを貼ったりできるようにします。



まち歩きの結果をガリバーマップに落とし込み、防災に役立つ新たな資源の発見や危機感をメンバーで共有することで、具体的な防災対策を考えるきっかけになります。また、ケアプラザと各自治会町内会とも、その情報を共有しておくことで、日常の見守りから連続して防災を考えることに役立ちます。

日下地域ケアプラザ 沼佐代子さん

事例 14

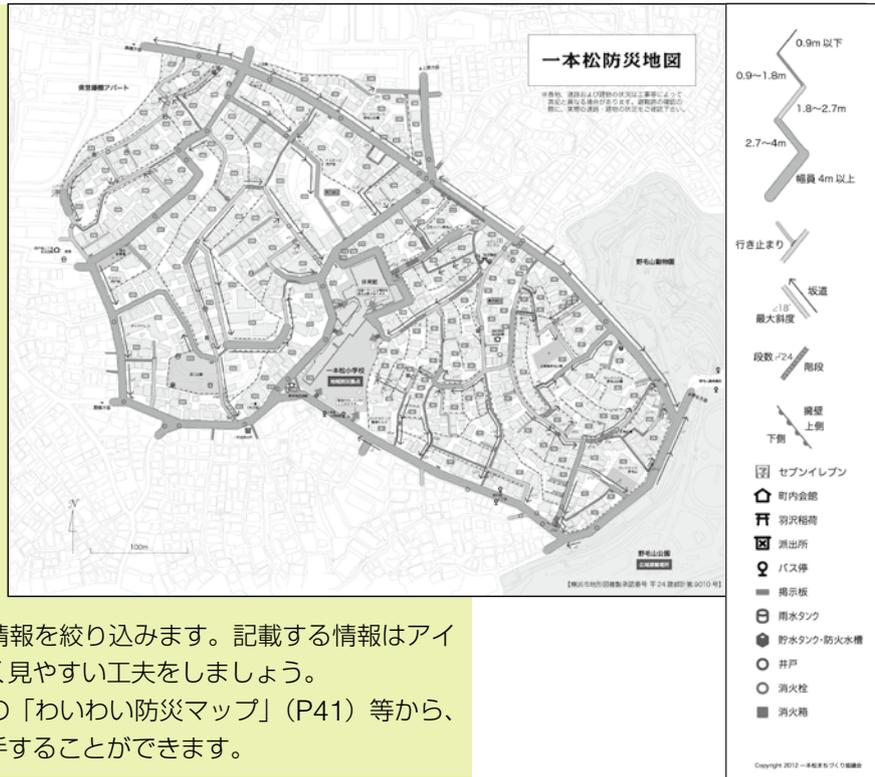
「逃げること」だけを考えた防災地図

西区 一本松まちづくり協議会

一本松まちづくり協議会では、災害時に一人でも多く無事に逃げられるように、道路の幅員や坂道・階段などの高低差、崖、目印などとともに、地域で整備した初期消火箱、雨水タンク、井戸などの防災施設も記載した防災地図を作っています。そして、この地図を用いて各自やイベント等でまち歩きを繰り返し、地域を良く知る努力を重ねています。

【マップ作りのコツ】

- ①まず、地図に記載する情報を整理します。
 - ⑦避難路に関連する情報：道路幅員、坂道・階段、崖、ブロック塀等
 - ⑧地域の目印等：交番、バス停、神社、公園等
 - ⑨災害時に役立つ施設：地域防災拠点、広域避難場所、防災倉庫、消火栓、消火箱、井戸雨水タンク等
- ②これらの情報が実際に地域のどこにありどのような状況かを実際に歩いて確認し、地図に落とし込みます。
- ③これを基に、地図に記載する情報を絞り込みます。記載する情報はアイコンなどを使ってわかりやすく見やすい工夫をしましょう。
- ④ベースとなる地図は、横浜市の「わいわい防災マップ」(P41)等から、正確な最新の地図データを入手することができます。



ここがポイント

- ❗ 地図を見ながら各戸で2つ以上の避難ルートを決めておきましょう。
- ❗ 年に1回程度は、実際に避難ルートを歩いて道沿いの建物等の状況等を確認しましょう。
- ❗ 「危険箇所」等の否定的な表現は地図に記載しにくいいため、その判断の元となる事実情報（例：崖、ブロック塀、行き止まり道等）を記載するようにしましょう。



防災地図は、いざという時、安全な場所にスムーズに逃げられるよう、道を覚えるためのものです。必ず目に見える場所に貼るか、吊るしておきましょう。本棚や引き出しにしまわないで。

一本松まちづくり協議会 米岡 美智枝さん

地域の地図を作ってみよう!! (わいわい防災マップの活用)

横浜市のホームページにある「わいわい防災マップ」を活用すると、簡単に地図を作ることができます。「わいわい防災マップ」では、白地図だけでなく、災害が発生した際の危険性や避難場所なども表示することも可能です。プリントアウトした地図をもとに地域で話し合い、自分たちの地図を作ってみましょう。

横浜市 わいわい防災マップ

検索

■「わいわい防災マップ」から出力した地図に書き込んだ例



あるマンション自治会の防災グループの勉強会で作ったマップです。この地域で災害時に危険なもの、避難場所、救助・消火など発災後の活動に役立つもの、自宅での避難生活で役立つ資源等を考えて記入しています。

この時のマップに
記入したもの

- ・崖 ・川 ・橋
- ・地域防災拠点 ・学校 ・寺社 ・企業
- ・消火栓 ・コンビニなどの店舗



いつも見ている地域のことなので、「わざわざこんなことをしなくても、みんな当然知っている」と思いがちですが、話し合いながら1枚の地図に具体的に書き込んでみると、新たな発見があったり、お互いの意識の違いが確認できます。

横浜プランナーズネットワーク 杉野 展子さん

③ 「マップ」を活用してまちへの理解を深める

地域の「マップ」を作成したら、必ず活用しましょう。いざという時に、「マップ」を取り出すのでは手遅れです。日頃から、「マップ」を繰り返し確認し、避難路などを体で覚えておくことで、発災時、確実に命を守れるよう準備をしましょう。

事例 15

町内減災オリエンテーリング

西区 一本松まちづくり協議会

一本松まちづくり協議会では、全戸配布した防災マップを使い「町内オリエンテーリング」を繰り返し開催しています。実際に各自が設定した避難路や地域で設置した消火箱、雨水タンク、井戸等の防災施設を見て歩くことで、住民に地域の状況を知ってもらい、災害時の避難ルートを複数例確認してもらうよう周知しています。



上：町内オリエンテーリングの様子
右：町内オリエンテーリングのチラシ

**第4回 町内
オリエンテーリング!**

お隣の'まち'をあるいてみよう!
新しい発見に出会えるかも!!
※一本松防災拠点備蓄庫見学します。

集合場所
西戸部二丁目第一町内:西2公園
羽沢西部町内:羽沢稲荷前

日時:6月22日(日)
午前10:00集合~正午12:00
大勢のご参加お待ちしております。

※ マップは、当日お配りします。
平成26年 6月10日 一本松まちづくり協議会



ここがポイント

- ❗ オリエンテーリングは、コースを変えながら継続して行うことが有効です。
- ❗ できるだけ多くの地域の方々が参加しやすいように、例えばスタンプラリー等の工夫を考えましょう。
- ❗ 参加者に、各家庭でも各自の避難ルートを決めて歩いてもらいましょう。



防災・減災オリエンテーリングを行う際は、例えばスタンプラリー形式で楽しく回りながら、最後に役立つ防災グッズのお土産が出るなど、親子で楽しみながら参加できるひと工夫を考えましょう。

一本松まちづくり協議会 米岡 美智枝さん

④ 地域特性に応じた対策を考える

地域によって、危険箇所・被害想定は異なるため、必要な備えや訓練も異なります。その地域の特性に応じた対策は何か、よく整理して、確実に実施していくことが必要です。

事例 16

洪水からの避難訓練

鶴見区 平安町町会

これまでに何度も氾濫を繰り返してきた鶴見川に程近い平安町では、洪水時の避難訓練を実施しました。いつも町内会館に用意してある救命ボート2隻を使用し、小学校のプールを借りて、担架に乗せた救助者をボートで運ぶといった内容で行いました。



ボートに親しんでもらうために、子どもが楽しめる催しも用意



ここがポイント

- ❗ 救命用ボートは時折空気を入れるなど、点検を怠らないようにします。こうした機会も子どもたちには楽しい機会になります。
- ❗ 浸水によって被害が大きくなる可能性のある住宅（例えば、平屋建てなど）を調査しておくことも必要です。
- ❗ 子どもたちに訓練に参加してもらうことで、防災教育の入り口となります。



低地のまちに暮らしていますから、以前から水害は心配しています。特に救助する者が安全に移動できる膝下までの水深に達するまでに、高齢者が避難を完了できるように訓練しています。

平安町町会 河西 英彦さん

地域特性 (災害リスク) に応じた防災訓練を実施しよう

災害による被害を最小限にするためには、日頃の防災訓練がとても重要になります。

横浜市は、山（丘）あり、川あり、海もあり、それぞれの地域の状況により様々な災害が発生する恐れがあります。防災訓練に参加し、平常時から、「自分の住んでいる地域には、どのような危険があるのか？」を確認し、いざというときの避難行動に結びましょう。

■ 防災訓練の流れの例

① 地域にある (存在している) リスク (危険) の確認

ハザードマップ等で各種危険箇所（各種警戒区域）を確認しましょう。

【例】

- ・土砂災害警戒区域
- ・人家に著しい被害を及ぼす可能性のある崖地
- ・河川（洪水）の浸水想定区域
- ・津波の浸水想定区域



② 「避難勧告」が発令されるタイミングの確認

※避難勧告が発令がなくても、危険を感じたら自らの判断で避難することが重要です。

【避難勧告の発令基準】

- ・土砂災害…「土砂災害警戒情報」の発表を基に発令
- ・洪水…「氾濫危険水位」到達及び更なる水位上昇の見込みを基に発令
- ・津波…「津波警報」の発表を基に発令

③ 「避難勧告」が発令されたことを想定して、避難行動をとってみましょう。

避難勧告の発令は、区役所や消防署、消防団、警察などから広報があります。

どのように情報を収集するか、確認しておきましょう。



④ 避難する途中で、避難経路の確認（避難経路上の危険もあわせて確認しましょう）

⑤ 避難場所の開設

避難場所（安全な場所）の確認



⑥ 避難完了

⑦ 避難場所での防災講習会